

施策カルテ

1 施策の位置付け

担当課 保健福祉総務課

総合計画 政策の柱	市民の安全で健康な笑顔あふれる暮らしを支えるために	政策名 (基本施策名)	都市の福祉力を高める	取組の 基本方向	「都市の福祉力を高める」ため、福祉教育等により地域の人材育成を図るための「市民の福祉活動への参画促進」、市民の保健・福祉ニーズに迅速かつきめ細かに対応するサービス体制を構築するための「保健・福祉サービスの総合化の推進」、ハードとソフトの双方からノーマライゼーション(等しく生きる社会)の実現を図るための「ユニバーサルデザインの推進」、適切な施設サービスを提供するための「社会福祉施設の充実」、住み慣れた地域において、自立した生活を送るための「保健・福祉サービス基盤と支援機能の充実」に、重点的に取り組まします。	政策目標 (基本施策目標)	充実した保健・福祉サービスにより、住み慣れた地域において自立した生活を送っています。
--------------	---------------------------	----------------	------------	-------------	---	------------------	--

2 施策の現状と達成状況、課題の抽出

①施策名	ユニバーサルデザインの推進						④ 施策の達成状況	H19:基準	H20	H21	H22	H23	H24:目標	達成率 (%)		
	市民の誰もが安心して快適に生活を送るための都市環境や社会環境が整っています。							施策指標(単位)	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値			
②施策目標	市民の誰もが安心して快適に生活を送るための都市環境や社会環境が整っています。						指標① (総合計画に基づく指標) 公共建築物のバリアフリー化施設の割合(%) 58.7 59.3 60.6 74.8 70.9 74.8 ----- ----- ----- ----- -----	-----	59.3	63.2	67.0	70.9	74.8	81.0%		
③施策を 取巻く環境	国・県等の動向	県は、ホームページの活用、おもいやり駐車スペース利用証の交付、バリアフリー施設マップ(県ホームページ)の管理などでユニバーサルデザインの普及啓発を図っている。国は、平成20年3月に策定した「バリアフリー・ユニバーサルデザイン推進要綱」において、情報提供の充実、表彰などによる優れた取組の普及・啓発の促進、障がい者等シンボルマークの普及を通じた障がい者等の抱える困難やそのニーズの理解の促進などを施策として行っている。				-----		59.3	60.6							
	外部意見 その他	市民の施策満足度が低いことから、高齢者や障がい者が地域で生活する上でいまだ不安があることが分かる。このため、誰もが地域において安心して自立した生活を送ることができるよう、共に支え合う地域社会の実現に向けて、より一層「こころのユニバーサルデザイン」を推進していく必要がある。平成22年2月、宇都宮市社会福祉審議会地域福祉専門分科会において、障がい者等シンボルマークを周知することはソフト面を推進していく上で重要であるため、より効果的な周知を図るよう指摘されている。				-----										

⑤ 市民意識調査結果	市民の 施策満足 度	19.8%	市民の 施策重要 度	63.9%	達成度 (単年度目標)	● 達成している (90%以上)	概ね達成 (70%~90%未満)	達成していない (70%未満)	説明	市公共建築物や民間公共施設のバリアフリー化など、ハード面の取組については計画的な整備により着実に進展しており、21年度単年度目標については、達成されている。				⑦ 現状分析と課題の抽出 ③⑤⑥を踏まえた分析	成果が見られる点	指標となっている公共建築物のバリアフリー化は単年度目標は概ね達成しており、累計でも8割以上進捗している。
					必要性・緊急性 (住民・社会ニーズ)	● 増加している	● 横ばい	減少している	説明	昨年度より市民の満足度・重要度は減少しているとはいえ、少子・超高齢社会の急速な進行や障がい者の自立支援など社会状況の変化により、これまで以上に地域における市民相互の支え合いや、誰もが安心して快適に暮らしを営める環境づくりが求められている。					改善の必要点	ソフト面においては、意識啓発など形に表れにくく長期的な取組が必要であり、障がい者シンボルマーク等の認知度をあげていくために、あらゆる機会を通して市民意識のムードアップを図っていく必要がある。ハード面では、市公共建築物の整備を計画的に執行するとともに、補助制度により民間公共施設の一層の整備推進を図っていく必要がある。
					適切性 (適切な事務事業の選択、実施)	● 十分である	● 不十分な事業が一部ある	不十分な事業が複数ある	説明	公共施設のバリアフリー整備などハード面の進捗は概ね順調であるが、ソフト面では、障がい者シンボルマーク等について認知度があがってきているものの、約3分の1程度の認知度であることから、さらなる市民意識の啓発が求められる。						
					有効性 (政策目標への効果)	● 十分である	● やや不十分である	不十分である	説明	誰もが住み慣れた地域において自立した生活を送るには、「どこでも、だれでも、自由に、使いやすく」という「ユニバーサルデザイン」の理念に基づく意識面や生活基盤上の環境づくりが必要であり、施策目標に対する有効性は高い。						

3 今後の取組方針

⑧取組の 考え方	総論	ハード・ソフトの双方から「ユニバーサルデザインの推進」に総合的に取り組み、既存の事務事業を継続実施するとともに、市民主体の福祉のまちづくりを推進するため、福祉に対する気運の醸成や地域の自主的な福祉活動を促進する取組を充実させていく。	➡	⑨政策評価 会議意見	<ul style="list-style-type: none"> 進捗状況は高い数値となっているが、福祉に対する気運の醸成や地域の自主的な福祉活動を促進するようにハード・ソフト両面からの総合的な取り組みにより事業を推進していく必要がある。 すべての市民にわかりやすく、やさしさや思いやりのあふれる文書を作成する指針としての「(仮称)ユニバーサルデザイン文書マニュアル」を作成する。 こころのユニバーサルデザイン推進事業において、障がい者シンボルマーク等の認知度を高めるよう普及啓発の手法を工夫する。
	重点事業	こころのユニバーサルデザインを進めるため、すべての市民にわかりやすく、やさしさや思いやりのあふれる文書を作成する指針として「こころのユニバーサルデザイン推進事業」において「(仮称)ユニバーサルデザイン文書マニュアル」を作成する。			
	見直し事業	こころのユニバーサルデザイン推進事業において、障がい者シンボルマーク等認知度を高めるよう普及啓発の手法を工夫する。			

4 施策を構成する事務事業一覧

No.	事業名	対象者	開始年度	活動指標等	H20	H21	H20	H21	重点度 (A~C)	事業の 方向性	施策目標を達成するための取組方針
					目標値	目標値	事業費	事業費			
					実績値	実績値	(千円)	(千円)			
1	こころのユニバーサルデザイン推進事業 担当課 保健福祉総務課	すべての市民	H20	障がい者シンボルマーク等認知度(%)	34.8	37.4	0	512	A	継続	ともに支えあう地域社会の実現のため、今後は、ユニバーサルデザインの啓発事業や文書のユニバーサルデザインを促進する事業を進めていく。
					34.8	37.6					
2	やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり事業 担当課 保健福祉総務課	すべての市民	H13	表彰の募集に対する応募件数(件)	30	30	3,373	2,443	A	継続	今後も一層効果的な周知方法を検討しながら福祉のまちづくり2号表彰を継続実施することで、福祉意識の高揚を図っていく。
					16	17					
3	やさしさをはぐくむ福祉のまちづくり公共施設整備費補助金 担当課 保健福祉総務課	本市の区域内において公共施設のバリアフリー整備をしようとする事業者	H12	補助対象工事件数(件)	7	8	6,799	3,672	A	継続	不特定多数の市民が利用する民間公共施設のバリアフリー整備の費用の一部を補助することにより、すべての市民が安心して円滑に利用できる施設整備を促進し、快適な生活環境の創出に寄与させていく。
					10	3					

様式 2

4	宇都宮市民福祉の祭典開催		すべての市民	H19	参加者数(人)	10,200	11,900	1,103	1,186	B	継続	本市の総合的な福祉イベントとして、市民意識の高揚を図る効果的な実施方法を検討しながら各団体等と連携協力し、継続実施することにより市民福祉の増進を図る。
	担当課	保健福祉総務課				8,800	9,500					
施策事業費合計						11,275	7,813					